

# インドネシア分会の設立

前土木学会会長 フェロー会員 濱田政則  
 国際委員会委員 正会員 アイダン・オメール  
 インドネシア分会幹事長 正会員 鈴木智治

## はじめに

本年度7月の理事会で承認されたインドネシア分会の発会式がジャカルタおよびスマトラ島のメダンで開催された。土木学会の本部を代表して前会長の濱田、国際委員会のアイダン、およびインドネシア在住の会員 鈴木等が発会式に参加した。インドネシア分会は台湾、韓国、イギリスなどについて6番目の分会となる。発会式出席に併せて、津波災害後、土木学会が数度にわたって技術支援チームや学生会員による防災教育チームを派遣してきたバンダ・アチェを訪問し、復旧状況を視察するとともに関係者と復旧・復興に関する懇談を行った。さらに土木学会が共催団体となった、パダンでの防災に関する国際シンポジウムに参加した。以下、概要を報告する。

## インドネシア分会設立の経緯

2004年12月26日、北スマトラ西海岸沖に発生したマグニチュード9.0の巨大地震はインド洋全域にわたって大津波を引き起こし、20万人以上の生命を奪った。アチェ特別州だけでも17万人以上の死者を出し、その中心都市バンダ・アチェでは人口の1/4が死亡するという過去1世紀で最悪の自然災害となった。地震後、土木学会は現地に調査チームを派遣し、被災状況をつぶさに調査し、記録するとともに、アチェ特別州や北スマトラ州地方政府等の要望に応

じて、津波で流出した西海岸道路の復旧、ニアス島復興への技術支援およびスマトラ島の地域津波警報システムの提案など技術支援を続けている。また、早稲田大学と京都大学の学生会員を中心にバンダ・アチェ、メダン等で現地の小中学生を対象とした防災教育活動を継続している。

一方、インドネシアから多くの若者がわが国の大学の土木系学科に留学しており、その多くは帰国後、インドネシア政府や研究機関等で要職に就いている。さらに、わが国の建設業、コンサルタンツの技術者がインドネシアの社会基盤施設の建設に従事してきている。このような状況を踏まえ、インドネシアとわが国の土木技術者の交流を深め、その絆をより強固にする目的をもってインドネシア分会が設立されることとなった。

## インドネシア分会の設立式

分会の設立発会式はジャカルタおよびメダンの双方で行われた。メダンでも発会式を行ったのは、上記のように、バンダ・アチェやニアス島での継続的な支援活動を通じて、北スマトラ在住の日本人土木学会会員（CTI技術者等）が北スマトラの現地技術者と密接な協力関係を築いてきており、かつ分会設立の発起人に多くの北スマトラ在住の現地技術者が名を連ねているためである。



写真-1 分会長スタント・スホド教授への委嘱状の交付



写真-2 副会長バックリアン・ルビス教授(右より3人目)との記念撮影



写真-3 インドネシア工学会土木部会長 ヘルマント・ダルダック氏との会談

ジャカルタでの発会式は7月25日に国立インドネシア大学で行われ、土木工学科教授で副学長でもあるスタント・スホド氏を分会長、また飛鳥建設の顧問でインドネシア事務所勤務の鈴木智治を幹事長に選出した。これを受けて、石井会長名による委嘱状が前会長の濱田より分会長と幹事長に交付された。分会長となったスホド教授は東京大学大学院で交通計画を研究し、修士・博士号を取得した経験があり、多数の日本人の知人、友人を有している。

分会長就任の挨拶のなかで、日本の大学への留学経験者のリストづくりや日伊合同のセミナーの開催などの当面の活動方針が説明された。来賓として出席した濱田から、津波災害後の土木分野における日伊の緊密な協力関係が紹介され、本部としてインドネシア分会の活動を積極的に支援する方針が説明された。続いて、土木学会の英文出版物による分会ライブラリーの設置など国際委員会の活動の基本方針の概要が日下部委員長からのレターにより紹介された。

同様な発会式が北スマトラのメダン市の国立北スマトラ大学でも7月23日に開催された。副分会長として同大学土木工学科長バックリアン・ルビス教授が選出され、石井会長名の委嘱状が交付された。

#### インドネシアの災害に関する国際シンポジウム

インドネシア工学会(PII)が主催し、土木学会も共催団体となっている「The International Symposium on Disaster in Indonesia」が7月26日より3日間、スマトラ島の西海岸の都市パダンで開催された。日本から濱田ほか10数名が出席し、インドネシアの自然災害と対策に関する研究発表と討論が行われた。会議の冒頭、濱田による「Disaster Management under Global Changes of Natural Environments



写真-4 新しく建設された津波防波堤の中で海水浴を楽しむバンダ・アチェの子供達

and Social Circumstances」と題した基調講演が行われた。パダンのインド洋沖合には地震の空白域があるとされており、近い将来の大地震の発生が危惧されている。今後の地震・津波対策に関し、土木学会としても現地州政府や関係機関に対し積極的に技術支援を継続する必要がある。

#### バンダ・アチェの復旧状況

津波災害からの復興状況の視察と復旧・復興に関する関係者との懇談のため、バンダ・アチェを訪問した。津波で壊滅的な被害を受けた地域では、住民が自らの土地に戻り、国際的支援金の供与を受けて住宅が建設されてきている。しかしながら、災害直後に提案されていた防災都市計画とはかけはなれて、再び津波に対して無防備の町が形成されつつあるとの印象を受けた。西海岸道路およびバンダ・アチェ市内の河川堤防、津波防潮堤の建設は各国の援助によって順調に進んでいるようであるが、水道施設などライフラインの再建は遅れており、被災した多くの地域でいまだに給水車による給水が行われている。

新しく建設された津波防潮堤の内側に発達した砂浜で、無邪気に海水浴を楽しむ子供達の笑顔を見て、災害から早くも2年半の時間が経過したことを思うとともに、世代を超えた災害経験の伝承もわれわれに課せられた重要な責務であることを強く感じた。